議長ティータイム

日時：平成31年３月28日（木）午前11時～
場所：議長応接室

（議長）
本日はお集まりいただきありがとうございます。

１　今定例会を振り返って

一つ目は「県民投票の結果を尊重し、辺野古沿岸部の埋立工事を直ちに中止し、新たな米軍基地建設を断念することを求める意見書及び同抗議決議」についてであります。これについては日米の政府機関、議会などに対して断念を求める意見書や抗議決議を送ることになっています。日本政府に対しては直接議員が足を運ぶこととしております。

そして二つ目「県民投票の結果を尊重し、辺野古沿岸部の埋立工事を直ちに中止し、新たな米軍基地建設を断念させることに理解を求める決議」について、これは国連機関や各県都道府県議会、或いは都道府県知事等に送るものであります。

三つ目「パラオ共和国200海里水域での操業継続に関する意見書」について、これは来年の１月からパラオ海域200海里の中の80％に該当する地域は操業を禁止するという法律ができまして、内側のパラオの島に近い部分20％についてはパラオの方々が操業できるが他国は操業できないとするもので、これまで沖縄も日本の漁師もそこで操業していたのができなくなるということです。今年に入って県も議員の皆さんも情報収集に務めている状況ですが、おそらくかなり厳しい要請になると思います。先日もパラオの大統領が日本に見えたときに安倍首相からも日本の操業について要請しているということですし、農林水産省や外務省もパラオ側と話し合いを続けているということですが、パラオも国として法律を作っていますので、そこにせめて一定期間でも操業ができないかということを基本的には沖縄側も政府を通してということになりますが、今後は県も直接パラオに要請に行く話も出てくるのではないかと思っています。

２　県議会出前講座の実施について

議会改革推進会議での取組の一つである開かれた議会の推進のため、今回初めて高校への出前講座を行いました。出前講座を希望してきた那覇高校で第１

回目を実施して、同校の２クラスだと思いますが約80人の生徒が参加したということです。この出前講座に９名の県議が参加しました。生徒達の反応は極めてよかったようで、政治家に持っていた堅いイメージが変わったとか、政治を身近に感じたとか或いは請願権なども使って住みよい沖縄を作っていきたいとかいう感想があったということですので、ややもすると今政治家のなり手がだんだん減ってきている中で、こういうことを通して高校生や若い人達に政治に関心を持ってもらう、政治離れが起きている中で政治に本人達も参加していくという雰囲気を作っていくということは非常に大事なことだと思っています。

それから、取組の一つとして議会の録画中継をインターネットで配信していますが、４月からタブレット、スマホでも視聴できるようにするということです。私自身がタブレットやスマホに疎いもんですから、私がちゃんと見れるかどうか心配なので、職員に見せてもらったりしないといけないかなと思っています。タブレットやスマホが大分普及しているので、議会の状況を身近に視聴できるということは大変結構なことだと思っています。

私からは以上です。あとは皆さんとの意見交換の中で話を深めていきたいと思います。

３　記者との質疑応答

（議長）

パラオについては、実は私も25年位前に行ったことがあるんですよ。数日滞在しましたが、あちらの島の周辺は割と浅瀬でそんなに深くないんですよ。そこで地元の漁師達が漁をしている。それがしばらく沖に行くと突然崖みたいに、200ｍくらい急に深くなるのだそうです。浅瀬では小さな船で、ある程度大きな船になると深いところでないと操業できない。そこが禁止される80％区域に入るんですが、沖縄や日本の船が行くのが禁止になる80％地域なんですね。これまで沖縄は約２千トンも獲っていたということで、沖縄の漁獲量の25％にあたるそうですからそこで漁ができなくなるというのは相当の影響になるので、パラオにとっても国として決めた法律ではありますが、こちらも大変な状況になるのでこれから慎重に話し合いを進めないといけない。先日、沖縄担当大臣や自民党の県選出国会議員などとも話をしましたが、向こうの政府決定を一定程度譲歩させることができるのか、簡単な話ではないので非常に慎重に進めないといけないということで意見が一致しています。当然、県が行く場合も水産庁あたりと情報交換をしながら、行く時期、進め方、どういう要請をした方がいいのかというのもしっかり連携してやっていく必要があると思いますね。

（記者）
　これは日本以外でも結構影響があるんですか。

（議長）
　日本以外の国については情報は入っていませんが、沖縄も昔から海外に出てマグロ・カツオ漁をやっていたんですね。伊良部の佐良浜地域だったか、昔は相当盛んにあの一帯、ミクロネシア地域などにも復帰前からずっと行っていましたし、そういう意味では沖縄の漁師達は海外でも漁をしてきた歴史があってそれがだんだんと引き上げてきていますが、パラオともそういう関係があって割とパラオの年配の皆さんは沖縄にものすごい親近感を持っているんですよ。まあ戦争に巻き込まれてあの辺の島で皆が必ずしも親近感を持っているわけではないですが、パラオでは割と親近感が強いんですよ。聞きましたら、昔あの一帯を束ねる南洋庁がパラオにあって、コロール島という島のアスファルト道路を戦前に作っているんですが、あれは自分たちと沖縄の人が作りましたとの話でした。沖縄から出稼ぎに行った労働者達だったんでしょうね。90歳以上の当時道路を作ったりした年配の皆さんというのはそういうのをよく覚えていて、今の若い人達がそういう話を知っているかなんですが、年配の皆さんは沖縄に対する親近感を持っているし次の世代にも話が伝わっておれば、今の大統領あたりまではそういう話を聞いている世代ではないのかなと思います。それに25年前に行ったとき、直前の大統領は日系人だったんですね。我々が行ったときは日系人の大統領はもう代わっていましたが国会議長という方が日系人で、地元の人達との話し合いの中に国会議長という方も会いにきていましたよ。まあしかし、国会議長が来るというのでこちらはネクタイもして行ったのに、本人は普通のシャツに短パンでゴム草履を履いてくるんですよ。これはちょっとびっくりしましたけどね。そういう大らかさがあるんじゃないですかね。

（記者）
　沖縄の議会から行ったら少しは話はしやすいのですか。

（議長）
　沖縄担当大臣も農水省の副大臣の経験があっていろいろ詳しいので聞いたんですが、向こうの大統領も国として決めたことだから大変だと思います。ある意味配慮しながらお願いをするしかできないですよね。こっちも大変だが相手も大変だから。しかも来年あたり国際的な環境保護の会議がパラオで開かれるそうで、向こうは尚更慎重にならざるをえない。そういう中でどう話をするか。どこかのタイミングで知事、副知事に行ってもらわないといけないかなと思っ

て水面下では副知事に伝えてはいますけどもね。

（記者）
２月定例会は、平成最後でしたけど何か感じるものはありますか。

（議長）
私は、平成が終わるからということではなくて、今の天皇皇后両陛下が戦後、現人神と呼ばれた天皇の権威から象徴と呼ばれることになって、象徴天皇とはどうあるべきかというのを信念を持っておそらくお二人で考えたり相談したりしながら実行してこられたのだと思います。昭和天皇までは考えられなかったことをどんどん実行されたこと、この功績は大きいと思います。日本のこれからの歩むべき道というのか、平和国家を目指す、天皇制は象徴天皇として政治的なことには介入しない、国民全体の象徴としてやっていくんだという強い決意というのがあって国を励ましていくということにかなり積極的に取り組んでこられた。そういう意味で、平成がどうとかではなくて象徴天皇制のあるべき姿を自ら実践された現在の天皇皇后両陛下が退位をされるということに対する感慨深いものはあります、よくお努めになったなあと思います。
次、世代交代したらどうなるんだろうと思っていましたけれども、次期天皇達にも象徴天皇のあり方というのがしっかり伝わって継続していく雰囲気を感じています。

どうもありがとうございました。お疲れさまでした。

以上